

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こもれび		公表日 令和8年 3月 13日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	0		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	0	義務化ではないため、実施していない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0		外部講師に来て頂く等して、研修内容の幅を広げていきたい。
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1	同じプログラムを繰り返すことにより、どの子も1つの取組みが上達出来るようにしている。	どうしても土曜日利用児童が出かける機会が多くなりがちである。長期休暇中に、土曜日以外の利用児童にも、出かける機会を設けるようにしていく。

提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	常勤、非常勤により勤務時間帯が異なるため、全員と一緒に話し合える時ばかりではないが、施設長や児発管を中心に、全員での情報が漏れなく共有できるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	おやつの中には、5種類あるおやつの中から、各利用児童が自分で選んでいる。工作の時間にも、素材の色や形を各自が選んでいる。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2	先方の都合もあるため、限られた回数ではあるが、なるべく日程調整をこまめにし、その他関係機関と連携するようにしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	3	一部の利用児童については、実施している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	該当する児童がいない			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。			対象の利用児童については、相談専門支援員に協力を頂き、実施している。	午前中の時間を利用して、こちらから積極的に児童発達支援センターに出向いていくようにしていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	1	実際に放課後児童クラブとの交流は出来ない。定員10名の児童発達支援・放課後等デイに対して、放課後児童クラブは規模が大きく、なかなか交流を申しづらい現実がある。	実際には、公園や出かけ先で、様々なお子さんや大人と接する機会がある。普段なかなか体験をした時には、出来る限り連絡帳で保護者の方に報告をしている。利用回数が少なく外出行事に参加できていない利用児童の保護者には、対応できる機会さえないかもしれない。長期休暇や祝日を利用して、色々な曜日に外出行事を行えるよう、工夫したい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	電話やメール、送迎時の時間を利用して、出来る限り保護者とコミュニケーションを積極的に図るよう、職員全員で努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4		家族が参加できるプログラムの実施は、年に1回位しか設けることが出来ていない。職員の勤務時間内で実施することは非常に困難である。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約時、保護者に丁寧に説明している。		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	0		出来る限り障害特性が類似している保護者同士の交流の場を提供したいと考えているが、各利用児童の特性が様々であるため、実現しづらい状況にある。今年度は、基幹相談支援センター様をお招きし、『知的障害をもつお子さんの18歳以降の暮らしについて』をテーマに様々な福祉事業所についてのお話をして頂いたり、保護者同士の交流の場を設けるこ
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	5	地域住民の方には、職員も利用児童も積極的に挨拶をするよう努めている。	地域住民を招待するイベントの実施は出来ていない。職員の勤務時間内での実施は、非常に困難である。どのように実現していくかは、職員間での話し合いが必要。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	2		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0		マニュアルを家族に周知する機会がなく、出来ていない。今後は、契約時に説明をしていくことを検討する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	0	該当する利用児童については、他事業所や児童発達センター、相談専門支援員と密に情報共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	該当する児童がいない			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	毎月配布している予定表の中で、保護者に周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0	やむを得ない身体拘束については、職員間で話し合いの上、同意書を作成し、保護者に説明している。個別支援計画書には、同意書がある旨、記載している。		